

第3次行政改革の成果と課題について (概要)

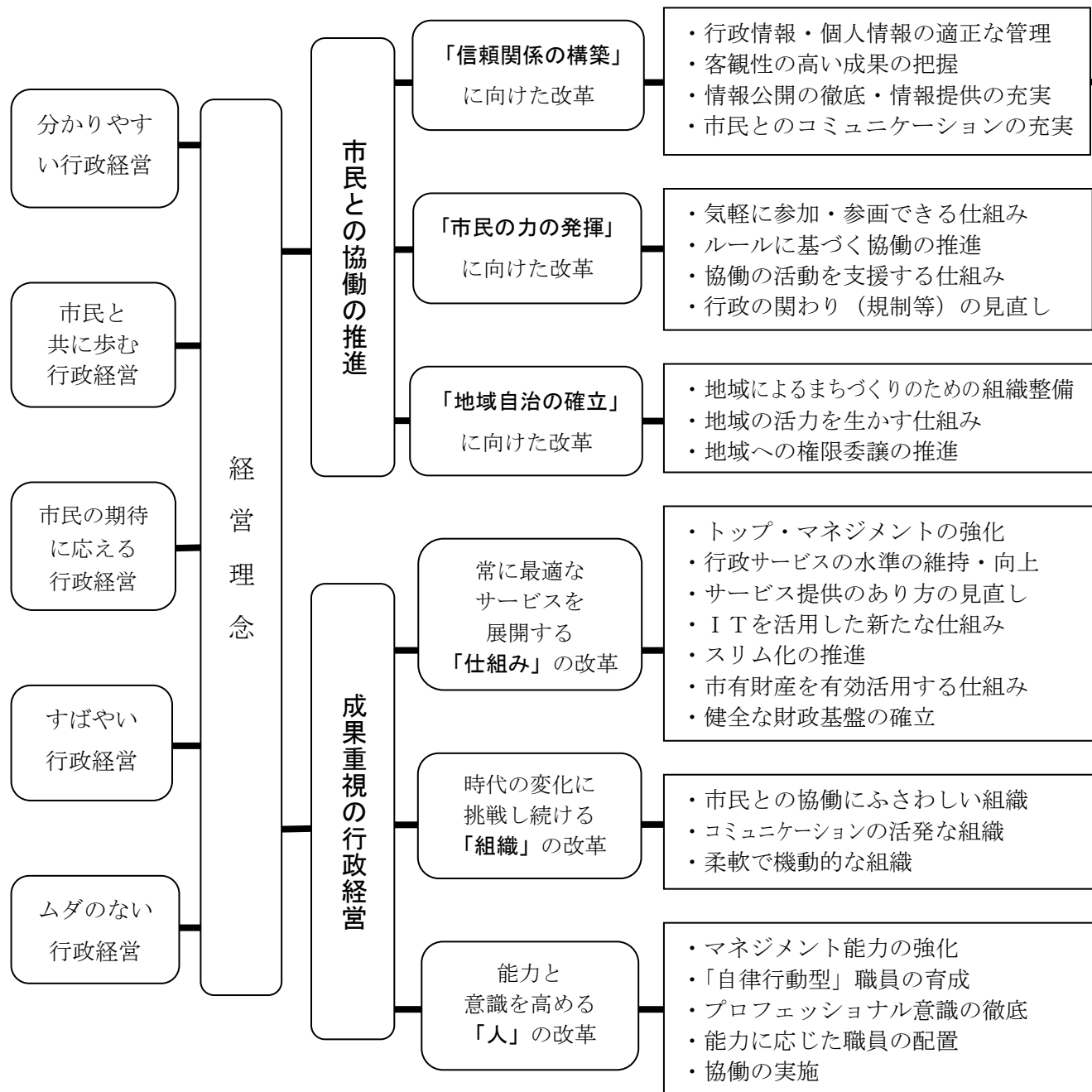
行政経営指針 (第3次行政改革大綱)

▽経営理念

私たち職員は、市民との協働を通じ、限りある経営資源で最大の効果をあげる行政サービスを提供し、市民満足の向上を目指します。

▽指針の体系

【5つの行政経営像】 【2つの方向性】 【6つの改革】 【26の取組の柱】



(1) 総括的評価

ア 第3次行政改革の主な成果

- (ア) 経費削減、収入増加：約385億円の経費削減、約16億円の増収効果
(平成15年度決算額の13.5%に該当)
- (イ) 業務の削減・効率化：外部委託の推進などにより、職員数459人の削減
(平成15年度当時の旧1市2町の職員数合計の11.2%に該当)

イ 各種取組の進捗状況

「行政経営指針行動計画」に位置付けた取組の9割が、目標どおりに進められている。

(2) 個別的評価

- 現状：**「市民との情報の共有化」等を重視する意識が醸成され、市政の透明性の向上が積極的に図られた。
- 今後の課題：**取組成果を市民に分かりやすく伝えるとともに、市政の理解を促す取組をさらに進めることで、市民との信頼関係をより深めることが求められる。
- 現状：**市民が本来の力を最大限に発揮できる体制や仕組みが具体化され、本市の自治を充実する基礎が整った。
- 今後の課題：**これまでの協働の取組がさらに促進・充実されるとともに、具体化された各種の取組が様々な主体により継続的・積極的に進められるよう、協働の質や効果を高める必要がある。
- 現状：**「本庁中心の行政」から、地域に視点を置いた「地区行政」の仕組みへの転換がより一層進み、身近なまちづくりは地域自らの手で行う「地域自治の確立」に向けた各種の具体的な取組が検討・具現化された。
- 今後の課題：**地域の個性・特性を生かしたまちづくりを引き続き進めるとともに、住民自身が地域の課題や目指すべき将来像を共有し、課題解決やその実現に向けた様々な取組を立案・実行することにより、住民自治意識をさらに高める必要がある。
- 現状：**行政内部の改革に向けた数多くの取組が積極的に進められ、持続可能な行財政基盤の整備に成果をあげた。
- 今後の課題：**「選択と集中」の考え方のもとで、先見性・創造性あふれる各種の取組を今後も積極的に進めるとともに、改革の成果を市民に分かりやすく伝えることで、市政に対する高い市民理解を得ることが求められる。
- 現状：**多様化する市民ニーズに的確に対応できる、現場主義の組織体制を整備した。
- 今後の課題：**新たな政策や複雑・高度化する課題にも柔軟に取り組むことができる執行体制の構築が求められるとともに、市民にとって分かりやすい組織機構とするための検証と対応が今後も必要となる。
- 現状：**人事サイクル全体を通じた人材育成に取り組むとともに、努力をして成果を上げた職員が評価される人事制度の構築に向けた準備が進められた。
- 今後の課題：**時代が求める多様な資質・能力を持つ職員を育成するとともに、行政改革の担い手である職員一人ひとりの改革意欲を活かせるよう、その意識を持続的に高揚させる取組が求められる。